

# 広島大学の若手研究者に聞く

山根嵩史さん(グローバルキャリアデザインセンター特別研究員)

研究テーマは「メタ認知」。人間は認知活動を行います。その活動を自分で見詰めるながら、コントロールすることを、メタ認知と言います。

メタ認知に関心を持ったのは大学時代。臨床的な心理学よりも、人間そのものの基礎的な心理学に興味を膨らんでいました。ちょうどメタ認知が流行していた時期で、メタ認知の概念が、人間の内的メカニズムに迫る基礎的心理学の分野と重なり、この研究を進めることにしました。

## 有無意味な単語提示実験を積み重ねる

掘り下げているのは、記憶に関するメタ認知です。オーディオックスなのは、モノを覚えて後に思い出すメタ認知で、これまでも、たくさん研究がなされてきました。僕は覚える前のメタ認知活動に着目しました。人間はどういう方法で覚えるのか。覚える前の過程が学校現場の学習に生かせる、と思ったからです。

## 研究テーマは「メタ認知」

研究は、大学生に参加してもらいながら、実験を重ねてきました。「机」とか「雪」とか有意味な単語と、「たわが」など無意味な単語を画面に提示し、その単語の覚えやすさの程度を、参加者に判断してもらうことにしました。結果としては、有意味な単語が覚えやすいと判断され、無意味な単語は覚えにくいと判断された。前述の実験は、事前に実験のテストをすることを予告しないで行いましたが、実験後にテストを行うことを

〇Lの判断は、イメージしやすさなどに影響されていることが分かりました。

## 学校現場に生かせる知見積み重ねたい

次の課題は、覚えやすさの判断基準が、学習者の勉強時間や成績にどう反映されているのかを明らかにする

一方、この研究の応用として学校現場の学習活動についても考察しています。一例として、

# モノを覚える前のメタ認知に着目 イメージしやすさ 覚えやすさの判断に

れやすいということが分かりました。さらに、覚えやすい単語は、「日常生活でよく見

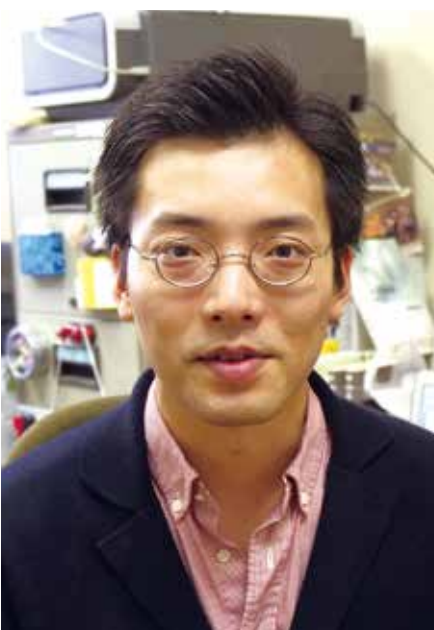
伝えた条件でも考察してみました。その結果、テストの予告の有無に関わらず、E

ことです。覚えやすい単語だから、勉強時間は短くて

としてノートを取るノートテイキングは、大学生を対象に調査を行いました。多

ば、と考えています。勉強の方法をコントロールするのもメタ認知の力。小学生のノートで感じるのは、悪いノートは板書の丸写しが多いということ。メタ認知の機能が働いていないから、先生の板書を漠然と写すことになり。良いノートと、悪いノートの違いはメタ認知に左右されるといっても言い過ぎではないでしょう。

僕は小学校の教員免許を持つています。ただ、自分の研究を直接、学校現場で実践したいとは思っていません。それよりも、大学の教員になって、もっと人間の認知メカニズムを極めたい、と思っています。(聞き手・白川)



「小学校現場に生かせる知見を積み重ねたい」と話す山根さん

山根嵩史(やまね たかし)さんプロフィール  
昭和62年生まれ。平成18年、山口中央高卒。23年3月、山口大教育学部卒。25年3月、広島大大学院教育学研究科心理学専攻博士課程前期修了。29年3月、同研究科人間科学専攻博士課程後期修了。29年4月から現職。



大学生に参加してもらい、実験を重ねる山根さん